

カトリック河原町教会だより

2018年9・10月

ペトロ岐部と187殉教者列福10周年記念ミサ・済州教区交流



(上) 司祭団 前列左よりヒョン神父、大塚司教、ムン協働司教

7月1日(日) 10時30分から河原町教会において大塚司教主司式、済州教区ムン・チャンウ協働司教、同ヒョン・ムンイル神父、チェ神父、菅原神父共同司式による、福者ペトロ岐部司祭と187殉教者列福10周年を記念するミサが捧げられました。

ミサ後は交流会が行われ、聖歌隊による韓国や日本の歌、中高生会のコーヒーショップなど、和やかな時間を持つことができました。なお、当日は大塚司教の霊名の祝日でもあり、霊的花束の贈呈などのお祝いを行いました。



(右) 子どもたちからの花束贈呈

秋の断想

空は高く、馬も肥えるという秋です。収穫の季節、豊かさに満ちた時期です。そして、豊かさをくださった天に感謝しながら、隣人と共に分かち合う収穫と感謝の季節です。自然に囲まれた鴨川沿いを歩きながら流れるきれいな水を見ていると、心も豊かになってきます。様々な種類の鳥が自然と共にハーモニーを成し、生きています。自由な姿と豊かさを感じることができる環境です。

ふと、「春に種まきをしなければ、秋に収める実が無い。」という昔話を思い出します。それに聖書の「惜しんでわずかしか種を蒔かない者は、刈り入れもわずかで、惜しまず豊かに蒔く人は、刈り入れも豊かになる。」(2コリント9・6)という言葉も心に迫ってきます。

神様から受けた数多い恩寵の賜物、この種をどれほど蒔いて、収めたものなのだろうかと振り返ったのです。私にくださった沢山の命の種、毎日の糧と時間、必要とする能力と才能と物質、そして何よりも優先すべき、信仰の実はどれほど実っているのか反省しています。

感謝の実、奉仕の実、犠牲の実、喜びの実、愛の実、忍耐の実、平和の実、赦しの実など……神様がくださった大切な種をよく育てる、耕すために心の最善を尽くしたならば、喜びと実も豊かになるはず。それが自然の摂理であり、また神様の祝福でありましょう。



洛東ブロック協力 ユン・サンホ 神父

農夫が一つの種を、心をこめて植えることは実りを希望するからです。したがって豊かな収穫を望むならそれだけの真心と愛を持って種を植え、栽培しなければなりません。それから種が土の中で死んで芽を出し伸びるのです。

これが自然の摂理、天の摂理です。もし種が土の中に埋もれて死ぬことを拒絶してしまうと、聖書のみ言葉の通り、鳥たちに食べられたり、道端に落ち踏みにじられたり、乾いてしまっただけで死んでしまい、実を結ぶことができないでしょう。

「はっきり言うておく。一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ。」(ヨハネ12・24)。イエス様が私たちにその模範になられたのである。一粒の麦としての人生……。

晴天の秋の豊かさの中で、神様が与えてくださった種を、春にどれほど蒔いて、今、収穫の準備と一緒に、どれほど希望と喜びに満ちているのか、聖書のみ言葉を黙想しながら、雲一点もない高い青空を眺めながら感謝と一緒に反省の時間を過ごしてみます。「神はあなたの方で働いて、御心のままに望ませ、行わせておられるのは神である。」(フィリピ2・13)、したがって、「神からいただいた恵みを無駄にしてはいけません。」(2コリント6・1)。アーメン。

共に平和を学ぶ 中学生広島平和巡礼 8月5日～7日

今年も恒例の「教区中学生広島平和巡礼」が行われました。大塚司教、大塚乾隆神父、チェ神父、ホン神父、ホセ神父、済州教区のラ助祭、ソ助祭、京都教区の出水神学生が引率し、京都教区から22名、済州教区から24名の中学生が参加しました。また日韓の青年リーダーも加わり、世代や言葉の壁を超えて交流する中で共に平和を学びました。

河原町教会の中学生たちの感想文をご紹介します。

「広島巡礼に参加して」

今回の広島巡礼に参加させて頂いたことで、「平和」について多くの事を知り、学ぶことが出来ました。1日目に行われた1分間の黙祷では、広島原爆投下から何十年を経た今でも、人々が過去の悲惨な出来事を忘れることなく、後世に伝えていこうとしている意志を感じました。8時15分を告げる鐘の音が聞こえると共に、それまで騒がしかった演説の声、相生橋を渡る路面電車や車の音、人々の足音や話し声が一齐に止まり、まるで時間が止まったかのような感じが凄く印象的でした。

また、済州島から来た方々と短い期間でしたが共に生活し、日韓の政治的な問題がありながらも、お互いに「平和」について深く考え話し合うことで、なぜ戦争や原爆がいけないのか、なぜ平和を守ることが大切なのかをお互いに確かめ合うことが出来たように思います。

僕自身も、これからは今回の巡礼に参加させて頂き学んだことを後輩に伝え、また、今回学んだ「平和」の尊さを日々の生活の中で感謝し生活して行きたいと思います。

(中1 平原 成都)



「被爆証言を聞いて」

今回の広島巡礼の被爆証言を聞いて、日本が戦争に負けていく様子がとてもよく感じられた。それは、衣服や食物、調味料が配給になり、小3の3学期に廃品回収、また教科書も支給されず、上級生からもらって使っていたなど、物資が足りなくなっていたことからわかります。さらに、1943年には東京大空襲が起きた時、広島にもB29は来たが、爆撃はされなかったという事実から、

アメリカ軍は広島を原爆投下地点として考え、偵察にきていたと感じました。

そして、原爆が投下されて、爆発した時ある人が「ガスタンクが爆発したのではないか」と言ったことから、ものすごい威力



があったと想像できました。また、負傷した人も全身血だらけ、もしくは全身火傷になっていたと聞き、一瞬にして地獄のような風景になってしまったんだと恐ろしく感じました。戦争とは、人間が起こすものであり、罪のない人々が苦しんだり、死んでしまったりする恐ろしい事なんだと感じました。今、僕たちは平和な毎日を送っていますが、戦争の恐ろしさを忘れることなく、平和を保つためにいつも考え、努力しなくてはならないと思います。(中2 古川 達也)

「広島巡礼の思い出」

僕は広島巡礼に行つてあらためて戦争は怖いと思った。中でも一番印象に残ったのは平和記念資料館である。展示されていた写真、資料のいくつかは教科書にもものっていたが、ほとんどは初めて見るものだった。爆心地の上空写真には一つの建物もなく、砂利を敷き詰めた広場のようだった。でも、その隣の写真から投下前は住宅街だったことがわかった。爆発で直接けがをしなかったのに間もなく死んでしまった人たちには大きなあざのような跡があった。何日もたたないうちに体中に現れ、死の斑点と言われたそうだ。

平和記念資料館には外国から見学にきている人も大勢いた。70年以上も昔の日本の出来事なのに、また、決して面白く楽しい展示でもないのに、多くの人が訪れることに驚いた。一緒に巡礼した済州の中学生と友達になれたことがもう一つの収穫だ。コミュニケーションをとるために、必死で英語を使って資料館の印象を分かち合った。僕のつたない英語と身振り手振りでもちゃんと通じたことは、とても嬉しいことだった。ハングルも少し覚えた。帰宅して家族にその話をすると、姉に、「友達がいたらその国が好きになる」と言われたが、本当にその通りだと思った。そしてほかの国のことももっと知りたくなった。済州の中学生とは今でもメールの交換をしている。

支援して下さった方々や引率してくれたリーダー達のおかげで、このような貴重な体験が出来ました。感謝します。ありがとうございました。(中2 小杉 肇)

隣国を訪ねて 京都教区青少年KYD体験学習 8月9日～16日

8月11日～15日、韓国のソウルで開催されたKYD (Korean Youth Day) に、河原町教会から二人の高校生が参加しました。引率はキム神父、チェ神父、ランディ神父が行い、韓国の青年リーダーが通訳として同行しました。

9日出発のBコースは、先に済州で2日を過ごし、カン司教にお会いしたり教会を訪ねたりしました。11日出発のAコースと合流し、大会には済州教区の一員として参加しました。

大会中はソウルの信徒さん宅にホームステイしながら、ミサ、教区の聖地巡礼、修道会での典礼体験、ミョンドン大聖堂のフェスティバルなどの様々なプログラムに参加し、韓国の青年たちの信仰に触れました。

河原町教会の参加者二人の感想文をご紹介します。



■ 今回韓国で行われていたKYDに参加させていただきました。

言語が通じないという中でうまく会話ができるのかとても心配ではありましたが、ジェスチャーや英語などでたくさん話すことが出来

ました。全世界それぞれ違う言語が話されていますが、ミサの時は神様に向かう気持ち、悲しい時には悲しい気持ち、楽しい時には楽しい気持ちと感じる心は同じなのだと実感しました。

ミサの際、言語は分かりませんでした。日本のミサと同じフレーズ、同じ祈りなどがあったので全く分からないということはありませんでした。

しかし、日本のミサと韓国のミサには違う部分がありました。それは音楽です。

日本のミサの音楽は一定のリズムや落ち着いた曲調が多いですが、韓国のミサではテンポの良い、軽快な曲調ばかりで若者も楽しんで踊ったりと文化の違いを感じることができ、とても驚かせられました。

活動のひとつとして韓国の聖地を巡りました。韓国教会は1784年の誕生直後から、100年近くの間10回にわたる大小の迫害を受け、たくさんの殉教者達が処刑されたそうです。わたしが訪れた教会にはその殉教者が捕らえられた時に使われていたものや歴史について地下の場所に詳しく書かれており、実物に似たものが置かれているなど当時の情景が浮かび上がりました。

韓国の聖人は103人、最年少である13歳から最高齢者が78歳と様々な年齢の方がおられるそうで、とてもたくさんの方に驚いたのを覚えています。

その他の活動として、大きなスタジアムで聖歌を合唱したりお祈りを行ったりなど神様を近くに感じることのできる6日間となりました。

日本人が参加しているということでたくさんの韓国の方々はまだおぼつかない日本語で話しかけてくださったり、たくさんの配慮をしていただきました。そして、私



通訳のソヨンリーダー（前列左から2人目）と共に

がKYDに参加でき、たくさんの経験や思い出ができたのは皆様のお心遣いからです。本当にありがとうございました。（高2 前川 沙喜子）

■ 私は8月9日から16日までの一週間KYDなどに参加し、日本ではできないような貴重な体験をしました。

一番大きな体験はホームステイで

す。ホームステイは初めてで話す言葉も違うので不安ばかりでした。私は済州教区の女の子と2人でホームステイをすることになりました。一歳年上のウンビはとても頼りになるお姉さんでした。ウンビは日本語が上手でステイ先の家族や友達の通訳をしてくれました。全てではありませんがそれだけで不安だった気持ちは安心感に変わりました。私も片言ですが韓国語で話しかけました。ステイ先のお母さんの韓国語はほとんど分からなくて上手く返事を返せないことが多かったです。それでもお母さんは私にずっと話しかけてくれました。少し言葉の意味が分かったときの喜びは一言では表せないほどで、お母さんもすごく喜んでくれました。最終日までには「行ってきます、ただいま、おはようございます、おやすみなさい、ありがとうございます」などの挨拶は韓国語で言えるようになりました。

私はこのKYDを通してある歌詞の意味を理解することができました。それはアーメンハレルヤの「世界みんな兄弟さ話す言葉が違ってても」という歌詞です。本当にその通りで話す言葉は違いますが共にご飯を食べて、寝て、活動をしました。私はKYDを通して血の繋がりが兄弟姉妹がいるということを実感することができました。

最後に、今回このような機会を頂けたこと本当に嬉しく思います。ありがとうございました。

（高2 平野 有理）



◇ 2018年9月～11月の行事予定 ◇

(予定は変更になる場合があります)

月	日	曜日	行 事 予 定
9	2	日	[年間第22主日] 評議会9月例会10:30ミサ後 被造物を大切に作る世界祈願日
	8	土	小教区評議会役員交流会(河原町教会)10:30～
	9	日	[年間第23主日]
	14	金	[十字架称賛]
	15	土	《ブロック行事》典礼学習会(伏見教会) 一場神父「いのちの体験」14:00
	16	日	[年間第24主日] 敬老感謝ミサ10:30・懇親会 ミサ後(ヴィリオンホール)
	23	日	[年間第25主日] 世界難民移住移動者の日(献金)
10	30	日	[年間第26主日] 教会美化デー 中高生会コーヒーショップ10:30ミサ後(1F集会室)
	6	土	～7日(日) 教区青年のための黙想会(望洋庵)
	7	日	[年間第27主日] 福者京都52殉教者列福10周年感謝ミサ10:30 10月毎日曜日10時 ロザリオの祈り 《ブロック行事》病者のためのミサ(山科教会:ユン神父)9:00
	13	土	～14日(日) 中高生の集い&青年の集い(桃山教会)
	14	日	[年間第28主日] 評議会10月例会 10:30ミサ後
	21	日	[年間第29主日] 世界宣教の日(献金)
	22	月	～26日(金) 教区司祭黙想会
	27	土	洛東ブロック会議(伏見教会)14:00
28	日	[年間第30主日]	
11	1	木	[諸聖人]
	2	金	[死者の日] 諸死者追悼ミサ18:30
	3	土	第39回京都南部ウォーカーソン
	4	日	[年間第31主日] 評議会11月例会10:30ミサ後 物故者追悼ミサ(衣笠教会)14:00
	11	日	[年間第32主日] 七五三祝い10:30ミサ
	18	日	[年間第33主日] 貧しい人のための世界祈願日
	25	日	[王であるキリスト] (年間第34週)

「平和を願う祈り」より

神よ、わたしに、
慰められるよりも、慰めることを、
理解されることよりも、理解することを、
愛されるよりも、愛することを望ませてください。
自分を捨てて初めて自分を見出し、ゆるしてこそゆるされ、
死ぬことによるのみ、永遠のいのちによみがえることを深く悟らせてください。

10月4日 アシジの聖フランシスコの記念日

書籍紹介 ～立ち止まって原点に帰る～
『使徒的書簡 おとめマリアのロザリオ』

教皇ヨハネ・パウロ二世 著 (カトリック中央協議会/2003年)
キリストの招きに従って行うロザリオは、平和のための祈りです。祈りを通して私たち自身が変わり、どんな困難の世にあっても「世界に平和をもたらす者とする」(66頁)ことを願ってキリストに心を向け、心を合わせて祈りましょう。(64頁～「平和」参照)



河原町教会 ミサの時間

日曜日 (主日のミサ)

7:00

10:30

*英語ミサ 12:00 (第2・4週)

月曜日 6:30

火曜日 6:30

水曜日 6:30 18:30

木曜日 6:30

金曜日 18:30

土曜日 6:30 18:30

(主日のミサ)

信仰の学びのお知らせ

◇信仰入門講座◇

(1F集会室)

水曜日 15:30	一場 修 神父
木曜日 19:00	一場 修 神父
金曜日 11:00	一場 修 神父
金曜日 19:15	村上 透磨 神父
水曜日 10:30 [洗礼準備講座]	ユン・サンホ 神父
木曜日 10:30	ユン・サンホ 神父
金曜日 17:30	菅原 友明 神父
土曜日 11:00	菅原 友明 神父
土曜日 17:00	菅原 友明 神父

※洗礼準備講座をご希望の方は教会事務室まで

◇洛東ブロック信徒養成講座◇

【河原町教会】 第1土曜日 19:30～20:30

菅原 友明 神父

【伏見教会】 毎火曜日 10:00ミサ後～11:30

ユン・サンホ 神父

毎木曜日 14:00 菅原 友明 神父

【桃山教会】 毎火曜日 15:00 菅原 友明 神父

【山科教会】 毎火曜日 10:00 一場 修 神父

◇南部地区信徒養成講座◇

(6F会議室/毎月1回水曜日)

大塚 乾隆 神父「典礼を学ぶ」

9月12日・10月10日・11月14日

13:30～14:50

◇『ラウダート・シ』読書会◇

(1F集会室/毎月2回 第2・4木曜日)

14:00～15:30

指導: Sr. メリー・レベッカ・我部

◇主日の福音を読む集い◇

(3F・301号室)

毎週日曜日 9:30～10:15

カトリック河原町教会だより 2018.9・10 カトリック河原町教会広報部発行

〒604-8006 京都市中京区河原町三条上る下丸屋町423 担当司祭: 一場 修

TEL: 075-231-4785 FAX: 075-211-8021 URL: <http://CatholicKawaramachi.Kyoto>